

幼虫の食草



4月初旬頃のヒメカンアオイ。紫褐色の花(写真のほぼ中央)の左側には、二つに折られたままれた若葉がのぞいています。



ギフチョウは芽吹いたばかりのヒメカンアオイの若葉を探して、葉の裏側に卵を産み付けます。

ギフチョウと里山の環境

ギフチョウが好む環境は雑木林の里山です。春、落葉樹の林は林床によく日が当たることによって、多様な植物の成長を促します。夏には葉が茂り、涼しい木陰ができる環境でギフチョウは成長します。

伊賀地方のギフチョウの産地である里山には、幼虫の食草であるヒメカンアオイが自生しています。ヒメカンアオイは常緑の多年草で、カンアオイ類の中では小

型です。葉の長さは5〜8センチでハート型をしています。伊賀地方にギフチョウが生き残っているのは、この地域の里山にヒメカンアオイや、蜜源植物みつげんが育つ、ギフチョウが最も好む環境が残っていたからだと考えられます。

昔は雑木林をつくるコナラ・クヌギなどは薪や木炭として燃料に、落ち葉などは堆肥や肥料にして利用されていました。人々の暮らしによって、里山の自然環境の多様性が維持されてきたものであるといえます。今では里山の手入れがされなくなり、暗くなった林の中では、ギフチョウが生息できる環境が少なくなっていました。

里山の「蜜源植物」

みつげん

ギフチョウが活動する春の時期に咲き、蜜を提供してくれます。

- ① タチツボスミレ ② ヒメオドリコソウ ③ カキドオシ ④ コバノミツバツツジ ⑤ ソメイヨシノ



①



②



③



④



⑤